

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成23年12月1日(2011.12.1)

【公開番号】特開2010-96864(P2010-96864A)

【公開日】平成22年4月30日(2010.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2010-017

【出願番号】特願2008-265710(P2008-265710)

【国際特許分類】

G 02 B 27/02 (2006.01)

G 02 F 1/13 (2006.01)

H 04 N 5/64 (2006.01)

G 06 T 3/00 (2006.01)

【F I】

G 02 B 27/02 Z

G 02 F 1/13 5 0 5

H 04 N 5/64 5 1 1 A

G 06 T 3/00 2 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成23年10月14日(2011.10.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項16

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項16】

光学系による収差を補正するための、予め用意された補正データを保持した保持手段を有する画像処理装置において、表示デバイス上で形成される表示画像を観察させるための光学系による収差を補正する収差補正方法であって、

取得手段が、前記表示画像を観察する観察者が使用する視力矯正用光学系による収差に関する収差情報を取得する取得工程と、

決定手段が、前記予め用意された補正データと前記収差情報に基づいて、前記表示デバイスから観察者までの光路中に存在する収差の補正に用いる補正データを決定する決定工程と、

補正手段が、前記決定工程で決定された補正データに基づいて前記表示画像に対して収差の補正を行う補正工程と、を有することを特徴とする収差補正方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項17

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項17】

光学系による収差を補正するための、予め用意された複数の補正データを保持した保持手段を有する画像処理装置において、表示デバイス上で形成される表示画像を観察者に観察させるための光学系による収差を補正する収差補正方法であって、

決定手段が、前記複数の補正データを順次に適用して前記表示デバイスに表示して前記観察者に観察させ、使用すべき補正データを決定させる決定工程と、

補正手段が、前記決定工程で決定された補正データに基づいて前記表示画像に対して収差の補正を行う補正工程と、を有することを特徴とする収差補正方法。

**【手続補正3】**

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項20】

コンピュータを、請求項1乃至15のいずれか1項に記載された画像処理装置の各手段として機能させるためのプログラム。

**【手続補正4】**

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項21

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項21】

コンピュータを、請求項1乃至15のいずれか1項に記載された画像処理装置の各手段として機能させるためのプログラムを格納した記憶媒体。